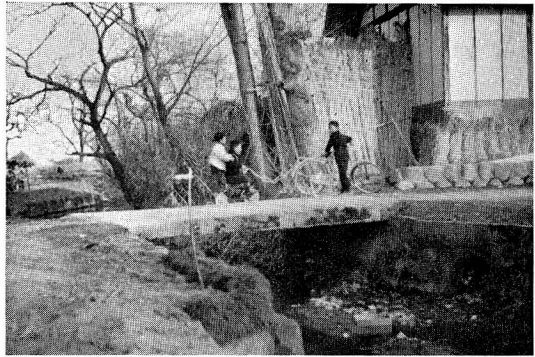




真渡のにわたり神社



鈴淵の水神様

になって、現在も北会津村などでは、盛んに行なっているとが多い。道祖神として宮袋の入口にあることは、宮袋の部落の項に述べた。

いろいろの伝承があつて、その真相をつかみにくなつてきているものに、真渡のにわたり神社がある。もとは蟹川分になつていたことがあるという。これにいろいろな縁起があつたのは後世で、広く他地方のものと比較してみると、これも道路の舟渡し場に関係した荷渡りに似た内容の神ではないかと思

われるふしがある。そして腰王神社と共に、裏日本より、阿賀野川などに沿うてのぼつてきた信仰ではなからうかと思われるが、民間信仰の系統を解くのは、既に容易でなくなつてゐる。

白山神社も、裏日本系統の信仰のようにみる人もあるが、少くとも北会津村では清水のあるところに祭られ水神系統と思つてゐる人が多い。鈴淵の村中を通つたら、小さい棒に幣がはさんで河畔の橋脚に立つていたが、これも水神を祭つたものであるという。扇状地末端の清水が、この村の開発の拠点であつたことは確かであるから古くより水神信仰が厚かつたことは当然であらう。